

Ikoma Inclusion Works

新しい人材との出会いをつくる職場体験実習



企業と障がい者が安心して働ける
環境づくりの第一歩

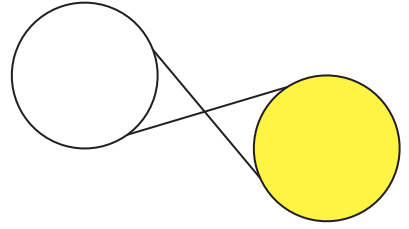
職場体験実習レポート

REPORT 01 株式会社リングスター[製造]

REPORT 02 生駒交通株式会社[運輸]

REPORT 03 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学[教育]

●雇用の現状

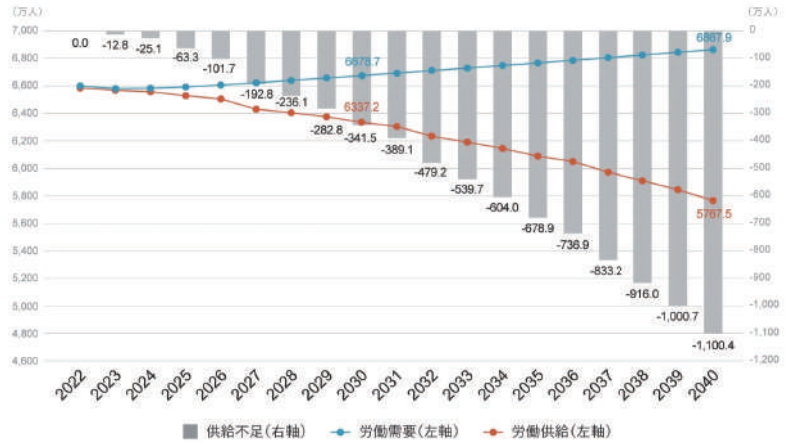


① 労働力人口の減少と「働き手不足」の深刻化

日本は人口減少と高齢化により、「生活を維持するために必要な労働力を供給できなくなる“労働供給制約社会”」に向かっています。将来は1人の高齢者を1.2人で支える社会になると予測され、これまで中心だった「週40時間働ける人材」は市場から急速に減少します。求人を出しても応募が来ない、定着しないという状況は、「企業の努力では解決しにくい“構造的な課題”」になっています。

●労働需給シュミレーション

リクルートワークス研究所「Works Report 2023 未来予測2024 労働供給制約社会がやってくる」より抜粋



② 法定雇用率の上昇と、未達成企業の増加

障がい者雇用は法的義務であり、法定雇用率は令和8年に2.7%へ引き上げられます。従業員37.5人以上の企業には雇用義務が発生し、対応しない場合は納付金・行政指導の対象になる可能性があります。一方で、法定雇用率を達成している企業は約46%（令和7年）に留まり、半数以上が未達成となっています。

➡ 多くの企業が、**どんな業務を任せればよいか** **配慮点や受け入れ方法がわからない**

といった理由で、対応に苦慮しています。

③ なぜ障がい者雇用が進みにくいのか

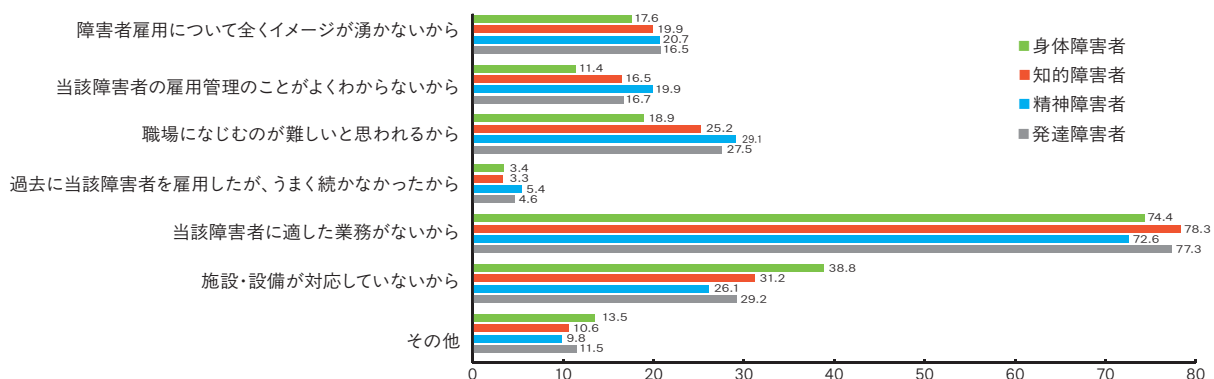
企業のよくある課題には次のようなものがあります。

➡ **適した業務がわからない** **ミスマッチや定着への不安**
周囲の理解不足 **受け入れ体制の整え方がわからない**

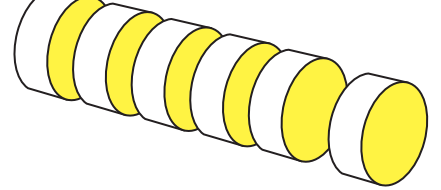


●障害者を雇用しない理由別事業所数の割合（複数回答）

厚生労働省：令和5年度障害者雇用実態調査

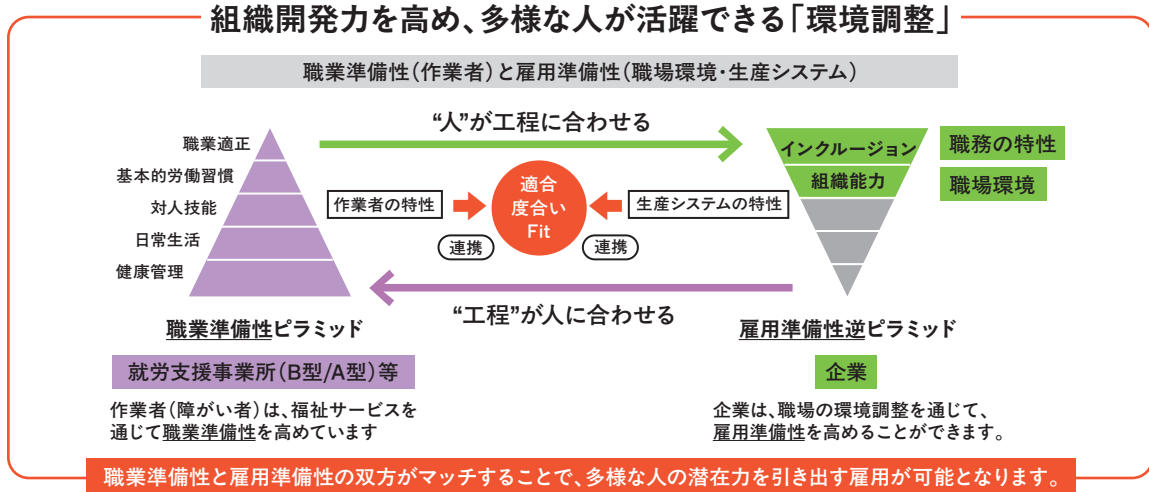


一方で、障がいのある方も、新しい環境への不安やコミュニケーション面での困りごとがあり、双方にとって「一歩目」を踏み出しづらい現状があります。



④ “働く力”と“受け入れる力”を整えれば可能性は広がる

障がいのある方は就労支援を通して「職業準備性(働く力)」を高めています。企業側は、「雇用準備性(働きやすい環境)」を整えることで受け入れがスムーズになります。この“職業準備性 × 雇用準備性”がマッチすると、企業にとっては業務の安定化・効率化につながり、本人にとっては安心して働ける環境が生まれます。



典拠: 鹿熊 健「インクルーシブな生産システムのマネジメント」(2024)所収のチャートを基に独自に作成

⑤ 生駒市では「まず実習から」始められます

いきなり採用ではなく、

- 業務の切り出し支援
- 職場体験実習
- 企業・本人・支援者での振り返りなど

ステップを通して、企業も本人も安心して取り組める障がい者雇用を進めています。

実際に実習を体験した市内企業からは、

- 思ったよりスムーズだった
- 戦力としての可能性を感じた

といった声も挙がっています。

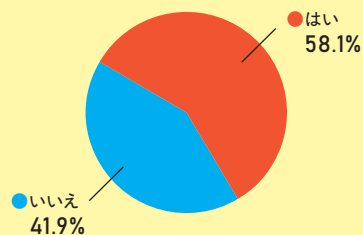
● 実習の流れ

事業説明会・セミナー ▶ コンサルティング ▶ マッチング会 ▶ 顔合わせ ▶ 職場体験実習 ▶ 振り返り ▶ 雇用

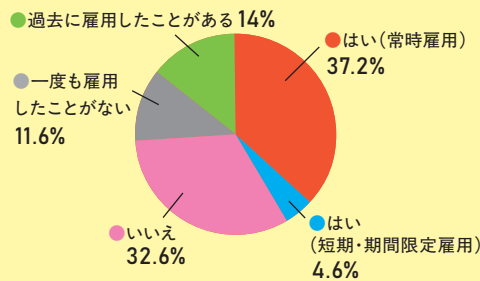
アンケート調査

● 生駒市の障がい者雇用の現状(令和7年度アンケート調査結果)(43件の回答)

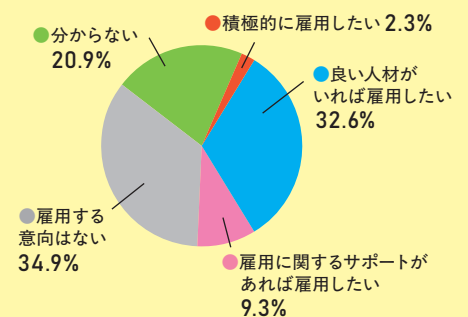
Q1. 現在貴社では人材確保採用に課題を感じていますか?



Q2. 現在、障がいのある方を雇用されていますか?



Q3. 障がい者雇用の意向について教えてください。



株式会社リングスター

製造・事務

〒630-0201
奈良県生駒市北田原町1208-5

明治20年創業、老舗の工具箱メーカー。「強く使いやすい」を追求し、プロの職人からDIYユーザーまで幅広く愛される製品を製造・販売している。



人手不足の「突破口」

確実な人材確保のカタチ

INTERVIEW

職場体験実習の感想



株式会社リングスター
総務部長 市村 淳二氏

今回、職場体験実習を受け入れた理由を教えてください。
市村さん：正直なところ、当初は障がい者雇用のノウハウが全くなく、不安の方が大きかったです。「体調を崩されたらどうしよう」「コミュニケーションが取れずトラブルになったら…」と、ネガティブな想像ばかりしていました。しかし、社内を見渡すと、請求書の照合や単純なデータ入力など、「正確性は必要だが、誰でもできる地味な作業」が山積し、私を含めた社員の時間を圧迫していました。将来的な人手不足への危機感もあり、「忙しいから実習の対応なんてできない」と断るのではなく、「この忙しさを解消するために、任せられる人を探そう」と発想を転換したのが、最初の一步でした。

実習では、どのような業務をお願いしたのでしょうか？



市村さん：3名の方に実習にきていただき、それぞれ、工場での「部品組み立て作業」や事務所で「データ入力・チェック業務」をお願いしました。特別な「実習用の仕事」を作ったわけではなく、既存の業務の中から切り出しました。準備としては簡

易なマニュアルを用意しましたが、実際にはマニュアルを読んでもらうよりも、横について「口頭で一緒にやりながら」教えるスタイルが一番スムーズでした。

実習生の様子や、職場の雰囲気はいかがでしたか？

市村さん：良い意味で「拍子抜け」するほどスムーズでした。現場の社員からも「普通に仕事ができているね」「どこに障がいがあるの？」という声が上がったほどです。特に

印象的だったのは、ある実習生との交流です。共通の話題（音楽グループのNiziU）で盛り上がり、その楽曲名にちなんで「Step and a step（一歩ずつ進もう）」というスローガンをパソコンのデスクトップに掲げて実習を行いました。これで一気に心の距離が縮まりました。

実習を通じて得られた“気づき”や“学び”はありましたか？

市村さん：最大の気づきは、「障がい者雇用＝社会貢献」という枠を超え、企業にとっての「確実な戦力確保」になるという実感です。「週5日フルタイム」でなくとも、週3日や短時間でも、条件や環境さえ整えば彼らは十分な戦力になります。例えば、几帳面な実習生は最初はスピードに課題がありました。慣れると精度を保ったまま速度も上がり、社員の補助として素晴らしい働きをしてくれました。また、彼らに業務を教える過程で、私たち社員自身が「どう伝えれば分かるか」を考えるようになり、属人化していた業務手順を見直すきっかけにもなりました。

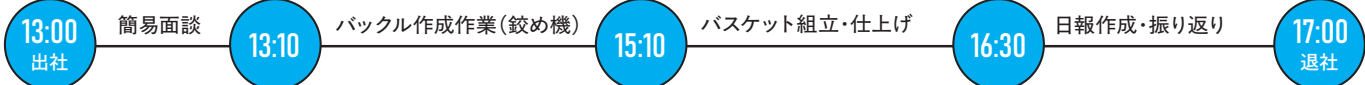
最後に、実習を終えてのメッセージをお願いします。

市村さん：「何から始めたらいいかわからない」と悩んでいる企業こそ、まずは実習から試してみてください。企業側は溜まっている業務を助けてもらえ、実習生は能力を発揮できる。まさに「お互いにとってメリットがある（Win-Win）」の関係が築けます。特別な設備や準備がなくても、「人として向き合う」気持ちさえあれば大丈夫です。ぜひ、その一步を踏み出してみてください。



SCHEDULE

実習の1日スケジュール



作業前に体調を丁寧に確認し、安心してスタートできるよう配慮し、こまめな休憩設定「30分作業・10分休憩」のサイクルを徹底。

VOICES

実習者&支援者(就労支援施設)の方の感想

実習者(A.Sさん)

現状の自分の能力を確認できたのがとても有意義であり、自信につながりました。

支援者のインタビュー(ウェルビー王寺駅前センター)

「現在の体力でどのくらい働けるか」が分かり、今後の就職活動や業種選びの参考となりました。実習先の方々にも親切にいただき、本人も非常に作業しやすかったと言っていました。

生駒交通株式会社

旅客業務・電話事務

〒630-0201
奈良県生駒市小明町1835-1

奈良県北西部(主に生駒市)を拠点に70年以上にわたり事業を展開する総合交通企業。タクシー、貸切バス、旅行業の3つの主要事業を柱とし、地域に根差した運輸サービスを提供している。



INTERVIEW

職場体験実習の感想



生駒交通株式会社 旅客業務部
課長 森本 哲司 氏

今回、職場体験実習を受け入れた理由を教えてください。
森本さん: 当社は約90名規模の企業として、法定雇用率の達成が現実的かつ重要な課題となっていました。令和8年には法定雇用率が2.7%へ引き上げられることもあり、具体的な対応を模索していた時期でもあります。そんな折、生駒市障がい福祉課から直接お声がけをいただいたことが、障がい者雇用のハードルを乗り越え、真剣に向き合うための「最初の一步」となりました。

実習では、どのような業務をお願いしたのでしょうか？
森本さん: 「交通・電話事務」を軸に、主にパソコンを使用した事務作業全般をお願いしました。具体的には、配車システムへの注文内容入力や、社内端末を使った乗務員への指示出しといった配車事務を担当していただきました。ただし、繁忙期のクレーム対応などによる心理的な負荷を考慮し、今回はあえて電話対応自体は見送る形をとっています。そのほかにも、乗務員のアルコールチェックや車両確認を行う出庫点呼の立ち会い補助や、翌日のスムーズな出庫に向けた準備に関わる事務補助など、当社の業務の流れに沿った実務に幅広く携わっていただきました。

実習生の様子や、職場の雰囲気はいかがでしたか？

森本さん: 非常にスムーズで、大きなトラブルもありませんでした。実習生の方は業務の飲み込みが早く、特に高いパソコンスキルには社員一同驚かされました。また、初日から留学経験という共通の話題で担当者

社員が一番成長できた3日間

障がい者雇用から始まる職場改革

打ち解けられたことや、担当者が不在の際も他の社員が自然にフォローに回るなど、職場全体に安心感のある雰囲気が流れていました。現場の女性スタッフからは「ぜひ採用したい」という声上がるほど、戦力としての可能性を大いに感じさせてくれました。

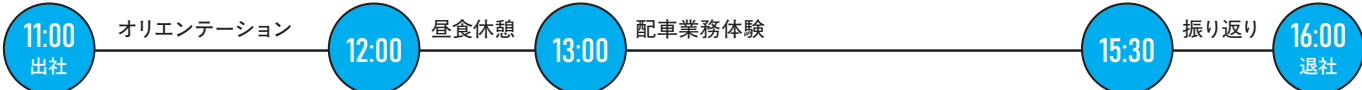
実習を通じて得られた“気づき”や“学び”はありましたか？
森本さん: 一つ目は、求人票や面接だけでは見極めが難しい適性や相性を、事前に職場見学や実習を通じて確認するステップは、企業・本人の双方にとってミスマッチを防ぐために極めて重要であると再認識したことです。二つ目は、社員の意識の変化です。実習生のために取り入れた「50分作業・10分休憩」というルールをきっかけに、周囲の社員の間でも適切な休憩の取り方が意識されるようになり、結果として職場全体のモチベーション向上に繋がったことは大きな発見でした。そして三つ目は、受け入れ態勢の考え方で、ハード面の整備は今後の課題としつつも、今回の実習ではまず今できる範囲で、担当者の固定や「一度やってみますか?」といった丁寧な声掛けなど、コミュニケーションを中心とした配慮を行いました。大がかりな設備変更がなくとも、工夫次第で円滑な運営と現場の安心感が得られたことは、私たちにとっても非常に大きな学びとなりました。



最後に、実習を終えてのメッセージをお願いします。
森本さん: 3日間という短期間でしたが、受け入れて本当によかったです。実習生の方を受け入れたことで、私たち社員自身が一番成長できたと感じています。

SCHEDULE

実習の1日スケジュール



負荷を考慮した役割分担と休憩をルール化し、聞き取った配車情報を正確にシステムへ打ち込むデータ入力作業を中心に体験。

VOICES

実習者&支援者(就労支援施設)の方の感想

実習者(S.Uさん)

説明会に参加させて頂いてから、心身ともにとても安心した状態で実習に臨むことができました。

支援者のインタビュー(ウェルビー近鉄奈良駅前センター)

実習に向けご利用者様が意欲的になり、また実習後には自信がついた様子でした。今後もこのような機会がいただけますと非常にありがたく存じます。

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学

事務・データ入力

〒630-0192
奈良県生駒市高山町8916-5

関西文化学術研究都市の中核を担う、国立の大学院大学。先端科学技術分野における教育・研究を推進し、産官学連携や国際的な研究活動を通じて、次世代をリードする人材の育成と科学技術の発展に貢献している。



奈良先端大



INTERVIEW 職場体験実習の感想

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
人事課 課長補佐 松下 直行 氏

今回、職場体験実習を受け入れた理由を教えてください。
松下さん：最大の動機は、採用におけるミスマッチを解消したいという思いでした。通常の面接では10分から20分という限られた時間で判断しなければなりません、それだけでは見えてこない部分があると思います。実際に働いていただくことで、ご本人には職場の雰囲気を知ってもらい、こちら側もその方のスキルや強みを確認できるという、雇用前の相互理解の場として非常に良い機会だと考えました。

実習では、どのような業務をお願いしたのでしょうか？
松下さん：今回は「事務」を軸として、主に人事課内でのパソコン作業を担当していただきました。Excelを用いたデータ入力業務が中心でしたが、人によっては予定していた3日間分の作業を初日だけで全て終えてしまうほどスキルが高く、そのスピードには驚かされました。そのほかにも、学内の郵便物回収や書類整理、図書廃棄に伴う作業など、当大学の日常的な事務補助業務に幅広く携わっていただきました。

実習生の様子や、職場の雰囲気はいかがでしたか？
松下さん：皆さん非常に落ち着いて淡々と作業に取り組んでくださり、職場に安心感のある雰囲気が流れていました。工夫した点としては、実習生の方がスムーズに動けるよう、既存の資料を加工して専用のマニュアルを作成したことです。また、特定の担当者を決めて質問しやすい体制を整えるとともに、ご本人の特性に合わせて「50分作業して10分休憩する」といったルールを



相互理解で防ぐミスマッチ
ソフト面の配慮で拓く雇用の可能性

計画段階から組み込み、無理なく集中できる環境づくりを意識しました。

実習を通じて得られた“気づき”や“学び”はありましたか？
松下さん：実際に車椅子を利用される方を受け入れたことで、ハード面での課題が明確になりました。例えば、建物自体はバリアフリーでも室内の通路が狭く移動しにくい場所があったり、学内の郵便ポストが高い位置にあって荷物を下ろす際に危険が伴ったりするなど、動いて初めて気づく点が多くありました。一方で、大がかりな設備投資ができなくても、丁寧な声掛けや手順の明確化といった「ソフト面」の配慮を尽くすことで、円滑な運営が可能になるという学びもありました。

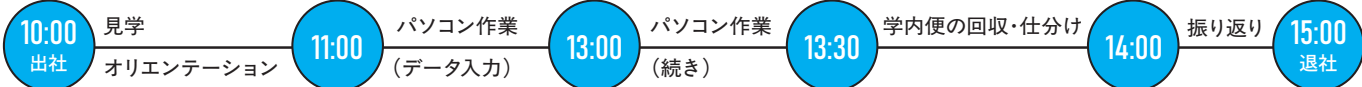


最後に、実習を終えてのメッセージをお願いします。
松下さん：短期間の実習でしたが、一生懸命に取り組む皆さんの姿に私たち職員も大きな刺激を受けました。今回の経験を通じて、実習というステップが安定した採用に繋がることを確信しましたので、今後は人事課内だけでなく他の部署へもこの取り組みを横展開できるよう動いていけると良いと考えています。年間スケジュールの中に実習を組み込むなど、より計画的な障がい者雇用を推進し、多様な方が活躍できる環境を整えていきたいです。



SCHEDULE

実習の1日スケジュール



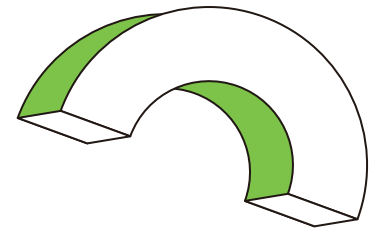
1時間ごとに休憩を挟むなどペース配分を調整。「誰に質問すればよいか」を明確にし、不安なく作業できるよう配慮。

VOICES

実習者&支援者(就労支援施設)の方の感想

実習者(R.Hさん)
実際に自分の希望する職場で仕事内容を知り、体験することができて有意義な時間を持てたことが良かったです。

支援者のインタビュー(セルポート)
事前にマッチング会で環境や職種内容について聞けたこと、ご担当者様のお人柄に触れる機会を持てたことで、応募する際や実習時にも安心感が持てました。



多様な職務・職種で広がる障がい者の活躍の場

障がいのある方が活躍できる仕事は、事務や軽作業に限らず、IT・サービス・専門分野など多岐にわたります。実習を通して、企業と本人の双方に合った仕事を確認することができます。

● 事務系

データ入力・電子化	名刺・アンケート・報告書など紙資料の入力・スキャン
書類整理・ファイリング	書類の分類、保管、庶務業務
電話・メール対応(定型)	取り次ぎや決まった内容の対応

● IT・情報系

ITサポート補助	PCやソフトウェアの初期設定、簡単な対応
データ管理・運用補助	システム運用に伴うデータ整理・チェック
簡単なプログラミング・監視業務	マニュアルに沿った定型作業

● マーケティング・広報系

市場調査・情報収集	インターネットを活用した調査・整理
SNS運営補助	投稿作成、画像整理、コメント確認
コンテンツ制作補助	文章入力、画像・資料整理

● 製造業・軽作業系

製造工程の補助・ライン作業	決められた手順に沿った作業
検品・仕分け・袋詰め	製品チェックや梱包などの軽作業
清掃・郵便物対応	工場内清掃、社内郵便の仕分け

● サービス・小売・専門分野

商品陳列・在庫管理	補充、在庫チェック、整理業務
レジ・接客補助	バーコード対応など定型業務
医療・福祉・金融分野の事務補助	清掃、物品管理、データ入力、書類整理

これら是一例です。

生駒市では、職場体験実習を通して業務を切り出し、企業と本人に合った仕事を一緒に見つけていきます。

障がい者雇用に関する相談窓口一覧

「何から始めればよいか」という検討段階でのご相談をはじめ、障がい者雇用の進め方や実習・採用後のフォローアップなど、お困りごとに合わせて専門機関をご活用ください。

●ハローワーク（公共職業安定所）

ハローワークには専門の職員が配置されていて、障がい者の職業に関するあらゆる相談に応じています。

ハローワーク奈良	奈良市法蓮町387(奈良第3地方合同庁舎内)	TEL:0742-36-1601
ハローワーク大和高田	大和高田市池田574-6	TEL:0745-52-5801
ハローワーク桜井	桜井市外山285-4-5	TEL:0744-45-0112
ハローワーク下市	吉野郡下市町下市2772-1	TEL:0747-52-3867
ハローワーク大和郡山	大和郡山市観音寺町168-1	TEL:0743-52-4355

解決できる悩み

「初めて障がい者求人を出す、書き方や条件設定がわからない」
「雇い入れによって得られる助成金の種類と、具体的な受給手続きを知りたい」

●奈良障害者職業センター

障がいのある方の採用・配置・職場定着・職場復帰に向けて、相談、情報提供、雇用管理方法への助言・支援等を行います。

〒630-8014 奈良市四条大路4丁目2-4	TEL:0742-34-5335	FAX:0742-34-1899
-------------------------	------------------	------------------

解決できる悩み

「障がい者雇用を検討しているが、仕事内容、採用方法、社内研修、合理的配慮の提供などについて相談したい」
「ジョブコーチ支援を活用し障がいのある従業員の雇用管理について助言がほしい、メンタル不調で休職している従業員の職場復帰(リワーク)支援を利用したい」

●障害者就業・生活支援センター

職業生活における自立を図るために就業及びこれに伴う日常生活、又は社会生活上の支援を必要とする障がいのある方に対し、雇用、保健、福祉、教育等の関係機関との連携を図りつつ、身近な地域において必要な指導、助言その他の支援を行います。

なら西和障害者就業・生活支援センターライク	〒639-1134 大和郡山市柳2-23-2	TEL:0743-85-7702	FAX: 0743-85-7703
-----------------------	------------------------	------------------	-------------------

解決できる悩み

「仕事面は問題ないが、生活リズムの乱れや体調管理など、企業側が踏み込みにくい私生活面のフォローをお願いしたい」
「本人とのコミュニケーションに齟齬が出た際、第三者の立場で間に入って相互理解を促してほしい」

発行 令和8年2月
編集 生駒市福祉部障がい福祉課
〒630-0288 生駒市東新町8番38号
TEL 0743-74-1111
FAX 0743-74-1600